

■ご挨拶

風力の拡大に向けて

日本風力発電協会 副代表理事 **祓川 清**
株式会社ユーラスエナジーホールディングス 顧問
北海道北部風力送電株式会社 代表取締役社長



はじめに

2015年5月29日の総会及び臨時理事会において、副代表理事を再任させて頂くことになりました祓川 清でございます。

引き続き風力業界の先輩各位ならびに会員の皆さまのご指導をあおぎ、風力業界の発展のために邁進してゆく決意でございますので、よろしくお願い申し上げます。

導入への障壁（環境アセス）

FIT制度が2012年7月より導入され3年となりますが、風力は太陽光に比してまったく伸びていません。FIT制度導入後間もなく（同年10月）風力が環境アセス法（期間：4～5年）の対象となったためです。

このアセス期間は欧米と比較しても圧倒的に長いことで、その短縮が求められてきましたが今日まで短縮されておりません。風力は、環境アセス対応があることで、開発から完成までに、9年程度の期間を要することになってしまったことで、我が国では風力の導入が進んでいません。

かかる状況にもかかわらず、風力発電事業者が、長期間の環境調査と高額な環境アセスコスト負担を継続した結果として、環境アセス段階及び工事着手済案件の累積容量は約700万kWに至っております。既設風力約300万kWと合わせると、政府発表の2030年風力導入目標1000万kWに匹敵する規模であります。

最大の障壁（系統連系）

世界に類のない厳しい環境アセスを風力業界全体で乗り越えている中、昨年7電力会社より、風力の接続可能量（連系の制限：564万kW）が発表されました。

風力にとっての最大の壁と言わざるを得ません。多額の資金を投入し、時間をかけて環境アセスや各種調査を実施しても、最後の段階で電力会社より、系統連系不可との回答を得るリスクがあるからです。事業者にとっては極めて大きなリスクと言わざるを得ません。

この接続可能量については、前提条件、広域的運営、気象予測、揚水活用、火力抑制などを含めた検証が必要であることは言うまでもありません。

連系問題の解決への一歩

一方、風力の大規模開発が可能であるにもかかわらず、送電網が脆弱であることで、導入が進まない北海道及び東北に国の補助金を半分付与し、送電網を敷設する4プロジェクトが採択されました。

S P C名	地域	最大規模
①北海道北部風力送電	北海道	140万kW
②日本送電	北海道	60万kW
③上北送電	青森県	90万kW
④秋田送電	秋田県	60万kW

我が国の系統連系問題の解決への一歩として、上述①の送電線と風力発電の開発を実施しております。

その実現に向けては、FIT 価格決定（設備認定前倒しを含む）、公益特権付与、接続・特定契約の締結、地域間連系線利用等々課題は山積です。

地域の皆様よりは熱烈な歓迎を頂いておりますので、現在、経済産業省、広域機関、電力会社などと制度整備の協議を鋭意進めております。

これらの課題を乗り越えれば北海道・東北の風力導入は大幅に拡大します。また、同様なスキームを他の地域（九州など）で実施できれば、更に風力は拡大すると確信しております。

風力の拡大に向けて

環境アセス、系統連系、制度、課題等々について、国と共に解決し、風力の大規模導入をはかるため、皆さまと共に頑張りたいと思いますので、倍旧のご支援をお願い申し上げます。

3年後のエネルギー基本計画の風力導入目標量を大幅に増やしましょう！